

人の力

小学四年生の頃、「税に関する絵はがきコンクール」で銀賞に入賞した。当時、入賞したことが自慢だったが、私の知り合いの六年生だった子が優秀賞に選ばれていた。私は、その子を羨ましく思い、「私も優秀賞になってみせる！！」と私の心に火がついた。小学五年生になって、そのコンクールに挑んだ結果、金賞だった。去年より賞が上がっていて嬉しい反面、優秀賞が取れなくて悔しかった。私は四、五年生の時、「税は未来を守る・作る」という抽象的な解釈をしていた。六年生になって「税が環境を守ってくれる」というテーマで書いた絵はがきは金賞だった。今、考えてみると「その時の私の考えじゃ優秀賞になれないんじゃないかな」と思った。

今になって最後に書いた絵はがきを見てみると働く人、税金で作られるものが描いてあった。その絵をみて「人口が減っていくと、税の力が衰えていってしまうのではないかと考えた。

人口が減ると、納税者が減る。納税者が減ると、納税額が減る。納税額が減ると、学校の教科書の配布、道路の補強、医療関係などがお金がなくてできない。小学六年生の頃、こんなに深く考えないで書いていた「税が環境を守ってくれる」というテーマの絵はがきだったはずが、「人口が税の力を左右する」という膨大な考えを感じさせる絵はがきになっていた。

人口が税の力を左右する。人口が少ないと一人の税を納める金額が増えてしまい、人々に負担が大きい。また、税を使用して道路を作るのも土木作業員や道路工事作業員が必要など何かを作る時には人手や材料が必要で、人口が少なかったら不便なことが沢山ある。一方、人口が多いと、一人の税を納める金額が少しは減り、生活に余裕ができるのではないかと。そして、より住みやすい環境へ変化していくのではないかと。実際、日本では、千九百七十年代頃をピークとして、年々人口の推移が変わってきている。高

齡者が増えてきているのだ。

働き手や納税者を増やすにしても私にはどうにもできない。今、税のために私達、中学生ができることは受け継ぐことだと思う。大切なことは今まで親、祖父母、色々な人が一生懸命働いて税を納めていたことを私達もするんだという自覚を持ち、税と私達はとても身近にあるということを知ること。そして、今までは守られてきた側なので将来、人口が減ったとしても納税して少しでも未来を守り、私のように、「税に関する絵はがきコンクール」で税について知ってもらおうなど色々な世代に税の良さを沢山知ってもらえるようなことを行うことも未来へ繋がっていくのではないか。